

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



広報しまだい
Shimane University



[特集2] 新研究科・新コース開設

社会のニーズに
応える新しい学び

vol. **48**

shimadai

2021.4

[特集1] 島根大学の新しいビジョン

島根大学の新ビジョン

島根大学は、「島根大学未来戦略(SMART20)」に基づき、地域に活き、世界で輝く大学を目指してきました。策定から5年を経て、社会や大学を取り巻く情勢も変わりつつあります。今後求められる大学のあり方について、服部泰直学長に新ビジョンを聞きました。

変容する社会が求める「地域の大学」

「未来戦略を見直し、新ビジョン策定の必要性を感じた背景は。」

まずは社会の変化です。「誰一人取り残さない」社会を実現するため、持続可能な開発目標(SDGs)や脱炭素化社会の重要性は以前から指摘されていましたが、その重要性和緊急性が再認識されてきました。また、Society 5.0に代表される知識集約型の社会への転換も進み、一方で地方分散型社会への志向が起っています。地域の人口が減少し、地域コ

ミュニティの基盤が弱る中で、全ての県に設置されている国立大学総体としての機能・役割は、地域の活性化にとって大変重要と考えています。大学が若者を育て、若者が地域に定着し、地域を元気にする「地域の大学」という視点からのビジョンは、より重要になってきています。社会に対する責任としてSDGsやカーボン・ニュートラル達成に向けて行動するとともに、地域に役立つ大学になりたいと考えています。

「島根大学に求められているものは。戦後、全国各地に国立大学が設立された時の使命は、「知の創造と継承」、



「高等教育の機会均等」でした。しかし、学生が地域外の大学も選べる環境が整ってきた今、その意味は変わってきました。国立大学は運営資金のほとんどを国からの交付金で運営しており、社会への責任も大きい。本学のような地方大学は、国としての重要課題である地方創生に資する役割も求められる中、各大学が自らの存在意義を示していくことが重要です。

島根大学は、島根県唯一の国立大学です。広範な学問領域を持つ総合大学として、地域はもとより世界各地で活躍できる人材を育てる使命があると考えています。

地域貢献の観点からは、地域との密な関係が不可欠です。「大学は数居高い」という声を聞くことがあります。が、少しずつフランクな意見も聴かせていただく機会が増えています。皆さんが何を求めているか、地域とキャッチボールしあえる関係を築き、その声を大学経営に活かしていきたいと考えています。

vol.48 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 11
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①法文学部 野本 瑠美 准教授 13
- ②医学部 飯田 雄一 助教 15
- ③総合理工学部 神崎 映光 准教授 17
- 社会で活躍する卒業生 19

- しまだい便り 21
- しまだい's サークル 24
- 島根大学支援基金より 25
- 読者プレゼント 25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

—新型コロナウイルス感染拡大の影響もありましたか。

キャンパスの感染予防に留意しました。いかに学生の学びと生活を守っていくか。授業では、これまで限定的な取り組みに過ぎなかったオンライン授業や動画によるオンデマンド授業を大学全体で実施するなど、デジタルトランスフォーメーション(DX)の流れが、確実に加速されました。オンデマンド授業は、学生が自分のペースで何度も視聴できるなどのメリットがある一方、対面はお互いの空気感を感じながら学ぶ良さがあります。今後は、オンラインと対面の良さをうまく組み合わせ、学生の満足度が高い授業を作っていきたいと思っています。



オンライン授業の様子

す。また、地域をはじめ多くの皆様から本学の学生へ多大な支援をいただきました。学生を含む大学関係者全員にとって、精神的にも大きな支えになりました。皆さんのご厚志に応えるために教育・研究をもつて恩返しをしたいと考えています。

新ビジョンが掲げる

地域活性のための取り組み

—まずは、「教育」の方向性について教えてください。

学びの仕掛けをどう作るのか。「島根大学しかない学び」を提供し、多様な個性が集う学びの場とします。

令和3年度入試からとりいれた「へるん入試」では、多様な「学びのタネ」を持つ学生を募集しました。知識の量ではなく、学びのタネ、各人がもつ関心・好奇心を基に、強い意欲のある学生が今年4月から入学してきます。何事でも同じですが、学びの中で何かを得るには努力が必要です。自ら学ぶ意欲を原動力に、努力が続けられる学生がキャンパスをますます元気づけてくれるものと期待しています。また「へるん入試」による入学定員も増やし、3年後までに特

別入試全体で入学定員の4割を受け入れます。狙いは、学生の多様性を醸成し、学内を活性化することです。偏差値にとらわれない学生が4割を超えれば、教育の質は確実に転換されます。より良い教育を実現します。

—地域を元気にする「研究」の取り組みは。

自由な発想に基づく研究は大学の生命線です。そして教員の研究成果を産学官連携などで地域に還元していくことも重要です。研究成果が社会や地域に役立つことは研究者自身にとっても嬉しいものです。また、「次世代たたら協創センター棟」が今年4月から本格稼働します。世界トップクラスの「尖った研究成果」を創出し、産学官金が一体となって、地域のものづくり産業に貢献していきます。

—今後さらに重要になる「社会・地域連携」についてはどうでしょうか。

地域と一体となって「島根に愛着を持ち島根を元気にする」人材を育成していきます。県内の高校の多くの卒業生は、県外に進学していく状況があ

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

2021.4 vol.48

【特集1】

学長インタビュー 島根大学の新しいビジョン 01

【特集2】

社会のニーズに応える新しい学び 05

【特集3】

古代出雲文化フォーラム 09

Vision Shimane University

[研究]

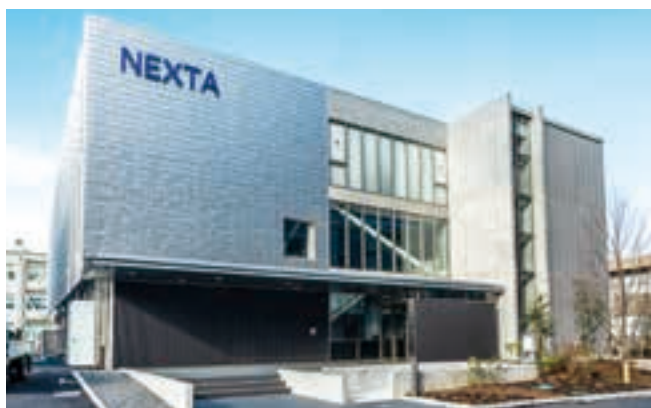
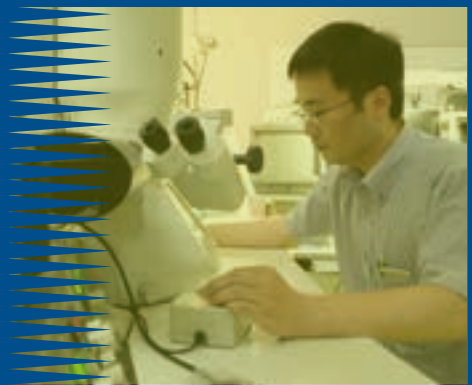
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。

5. 大学における活動基盤として研究力を高める
6. 世界で尖る研究を推進する
7. 産学官金連携を推進し、研究成果を社会へ還元すると共に研究財源を確保する

[経営戦略]

経営基盤の強化、学生・教職員が持てる力を最大限発揮できる環境の構築、社会・地域・学生からの要請に応える教育、研究、医療及び広報活動により、多様なステークホルダーからの理解と信頼を獲得すると共に、持続可能な社会の実現に貢献することにより、自律的かつ透明性の高い大学経営を実現する。

11. 現代的課題を踏まえ、持続可能な社会の構築に資する教育、研究等を推進させる大学経営
12. エンゲージメントを基盤とした大学経営への転換
13. 自律的経営の確立
14. ニューノーマル時代に向けた体制整備
15. コンプライアンスによる社会からの信頼の獲得
16. 積極的な広報によるブランド力の向上
17. 地域医療、先進的医療の中核として地域の安全・安心に貢献する附属病院



4月から本格稼働する次世代たたら協創センターの研究棟

りますが、本学としては1人でも多くの県内の優秀な高校生に入学していただき、島根を愛し島根を元気にする学生を育てたいと考えています。

本学卒業生の県内への定着については、令和2年3月に設立した島根県の高専教育機関、島根県、県内経済団体等の12団体が参画する「しまね産学官人材育成コンソーシアム」において意識を共有し、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

島根大学の 新ビジョン

A New
for

[教育]

専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。

1. 地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する
2. 学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する
3. 未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する
4. 国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する

[地域・社会連携]

地域一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成するとともに、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。

8. 地域一体となって「島根に愛着を持ち島根を元気にする」
人材育成・定着を強化する
9. 地域目線の貢献活動を推進・強化する
10. 地域における課題解決に資する研究を推進し、地域を活性化する

多様なステークホルダーの
声を大学へ

— 大学には、学生、保護者、地域、自治体、企業など多くのステークホルダーがいます。大学の「経営戦略」は。

カーボンニュートラル、持続可能な社会の構築の実現に向け、「島根大学SDGs行動指針」を経営の基本理念として、令和元年11月に策定しました。また、多様なステークホルダーからの理解と信頼が得られるよう、情報発信にも力を入れ、自律的かつ透明性の高い経営を目指します。新ビジョンは、ステークホルダーとの約束であることを常に意識し、経営を行っていきます。学生は勿論のこと、地域や企業など多様なステークホルダーと信頼関係を築き、それぞれとエンゲージメントを構築、共同の利益を目指していきます。

島根大学を応援していただいているステークホルダーの皆さん、どうぞ様々な声を大学に届けてください。率直な期待の声にお応えできるよう全力で前進していきます。

Graphic Design = Kotani Mitsuru

令和3年4月より新研究科・新コースが開設

社会のニーズに応える新しい学び

島根大学では、4月より新たに大学院・人間社会科学研究科と、総合理工学部の材料工学特別コースを開設しました。社会のニーズを反映した島根大学の新しい学びを紹介します。

Topic1

大学院・人間社会科学研究科を開設

令和3年4月より、旧人文社会科学研究科と教育学研究科の臨床心理専攻を改組し、新たに「人間社会科学研究科」が設置されました。各分野が持つ強みを活かし、幅広い分野からの視点を持ち、地域や現代社会が持つ課題にアプローチしていくことが可能となりました。丸橋研究科長にお話を伺いました。

社会のニーズに応じた改組 学際的な学びが実現

少子高齢化や人口減少が深刻化する島根県。特に中山間地域や離島では働き手の不足により、地域コミュニティは存続の危機に瀕しており、

地域創生が喫緊の課題となつていま

す。そのような状況下において、どのような人材が求められているのでしょうか。「大きく3つあります。まず、現在は精神的な豊かさや生活の質などが重視されているので、一人ひとりがその人らしく生きられる社会を作っていくこと。2つ目に、グローバル化の進行に伴い、多様な人々が共生する社会を作っていくこと。3つ目に情報化が進む一方で、それを使うのが困難な方もいるため、情報技術や科学技術に精通しながら、人文・社会科学に関する素養も持った人材が必要とされています」と丸橋研究科長。

人間社会科学研究科は、このような社会のニーズに応えた大学院で

す。「これまでの人文社会科学研究

科、教育学研究科の臨床心理専攻、そして4年前に設置された人間科学部。それぞれが持つ強みを活かし、社会の活動にアプローチする社会的分析と、個々の人間の心理に焦点をあてるアプローチの双方を組み合わせた学びを提供します」。教員の分野も人文社会・社会科学から自然科学まで多岐にわたり、より幅広い視点での学びが可能になりました。

この特色は、各種カリキュラムにも反映されています。オムニバス形式で多分野の視点を総合的に学ぶ共通科目「人間社会科学特論」のほか、社会連携、対人援助、多文化理解、インターンシップ、データサイエンスの5つのカテゴリから選択して学ぶ社会実

践科目も設けました。「これまでは特定の分野に特化して学んでいましたが、専門に足場を置きつつ、他の分野の学びにも触れるカリキュラム編成にしました。これらを通じて、現在の学びが社会とどのように繋がっているのかの意識付けもしたいと考えています」。

これまでになかった資格の取得も可能になりました。令和2年度から開始した「認証アーキビスト」資格です。「公文書改ざんのニュースも記憶に新しいと思いますが、公文書の収集や保管などに精通した専門家の公的資格になります。全国的にもこの資格がとれるところはまだ少ないです。官公庁はもちろんですが、民間企業でも役立つスキルです」。

人生100年時代に向けて 学びの窓口を地域にも広げる

新研究科のカリキュラムは、学生のみならず、現在社会で働く人にとってもスキルアップに繋がると丸橋研究科長は言います。「人生100年時代に向けて、卒業後もスキルを



丸橋充拓 研究科長

身につける、アップデートしていくことが今後必要になってきます。それに対応すべく、社会人の方でも学びに参加しやすい仕組み作りにも力を入れました」。4月からの大学院開設に合わせ、新たに「大学院特別履修プログラム」をスタート。これは、自身のキャリアアップの目的に応じて授業科目を選択して受講できるシステムです。「これを機に、リカレント教育が地域にもより浸透していけばと思っています。また、近年留学生も増加傾向にありますので、大学自体がまさに多様性、共生の場にもなっています。個々が認め合って成り立ちあう、お互いを支えていけるような人材の育成に向けて、分野の垣根をこえて学ぶ。そして、地域の方にも、ぜひその学びの一端に触れてもらいたいと考えています」。

VOICE



教員

人間社会科学研究科
社会創成専攻
健康・行動科学コース(健康科学分野)

鶴永 陽子 教授

幅広い領域から健康にアプローチ

健康に対する意識は年々高まり、健康の3本柱(食事・睡眠・運動)の考え方も定着してきました。しかし、それで本当に心身の健康を維持できるのでしょうか?また、健康の3本柱の重要性を認識していても、実践するのは難しいことです。健康・行動科学コースでは、健康科学、実験心理、精神保健の3分野を基盤とし、人間の心身の健康や行動について、幅広い領域から科学的にアプローチし、その解決に取り組める人材の育成を目指しています。



教員

人間社会科学研究科
社会創成専攻
人文社会コース(アーカイブズ学分野)

清原 和之 准教授

地域で活躍するアーキビスト養成

社会創成専攻アーカイブズ学分野では、自治体や企業などが生み出す文書を適正に管理し、社会的に共有すべき記録をアーカイブズとして保存し、利用可能にするための理論や方法論を学びます。また、昨年、国立公文書館が開始した認証アーキビスト制度に対応したカリキュラムを編成し、山陰地方をはじめ各地で活躍するアーキビストの育成を目指すとともに、アーカイブズの管理と活用を通じた豊かな地域社会の発展に寄与していきます。



学生

人間社会科学研究科
社会創成専攻
健康・行動科学コース 1年

大西 桃吾さん

最先端の研究につながる学び

僕は今、eスポーツと健康をテーマに研究を行っています。eスポーツは非常に新しい分野で、ほとんど何もわかっていない、最先端の分野です。この研究科では、研究を進めながら、その最先端の研究で活かせるような、実践的な内容の授業を学びたいと思っています。もちろん、その他の健康についての勉強も、学部時代以上に深く学びたいと思っているので、あらゆる角度から健康についてアプローチするような授業を期待しています。



教員

人間社会科学研究科
社会創成専攻
健康・行動科学コース
(精神保健分野)

足立 孝子 助教

実践力を身につける

昨今のメンタルヘルスにかかる課題は多岐に渡っています。これらを支えるためには、医療や福祉だけでなく、司法、教育、産業などの連携が必要となる場合があります。それぞれの職種が専門性を活かし、個々の課題を解決していくためにはどうしたらよいか。知識や技術を学ぶだけでなく、事例検討などを通して、実践力を涵養します。技術と理念の調和を目指しながら、良好なメンタルヘルスについて考えていきます。



学生

人間社会科学研究科
社会創成専攻
人文社会コース 1年

藤澤 雪乃さん

専門分野を社会で活かすために

島根県における映画上映活動についての研究を継続したいと考えています。研究科の授業や修士論文の作成を通じて、専攻する社会学をはじめとした人文科学・社会科学の深い知識や高度な社会調査の技術を学びたいです。そして、多面的かつ多角的に社会を捉える力を養い、自身の研究テーマである上映活動や文化という側面から、人々が豊かに生きることができる社会の実現に貢献できるよう学問に励んでいきたいと思っています。

総合理工学部に「材料工学特別コース」を新設

令和3年4月より、総合理工学部に新たに設置された「材料工学特別コース」。新コースは、2018年度に採択された「先端金属材料グローバル拠点の創出〜Next Generation TATARA Project〜」事業の一環で、金属工学を中心とした材料工学の教育を行い、地域の金属関連産業のイノベーションを担う人材育成を目指す目的で設置されました。総合理工学部長の伊藤教授にお話を伺いました。

5学科横断型コースで多分野に精通した人材を

材料工学特別コースは総合理工学部の全学科共通のコースで、学生は各学科に所属しながらこのコースを選択することができます。「この新コースのキャリア

ムには地元企業からの様々なニーズが反映されています」と伊藤学部長。新コースの設置にあたり、県内の関連企業から「材料以外の分野にも精通した人材がほしい」といった声を多く聞いたそうです。

「金属関連産業といっても、金属材料のことだけ知っていればいいわけではありません。例えば機械の知識や数理データなど、情報の知識を持つ人も必要不可欠です。そういった広い守備範囲を持った人が材料について学び、将来的に金属産業の分野で活躍するという視点で、イノベーションを引き起こすためには大切なのです」。これが5学科を横断するコースとして設置した最大の狙いです。また、身構えず気軽にこの分野に足を踏み入れてほしいとの思いから、もともと材料工学に興味を持っていた学生だけ

でなく、入学後に授業を通して興味を持った学生にも途中からコース選択ができる仕組みをとっています。

授業を担当する教員陣も次世代たたら協創センター(NEXTA)の教員をはじめ、幅広い分野から集まっているほか、オックスフォード大学の教員による授業やイングリッシュミーティングに参加できるなど、島根にいなから世界と繋がる貴重な経験も可能です。「こういった経験のためにも、英語でのコミュニケーション力は欠かせません。英語で話す、聞くなどの初歩的なトレーニングから、プレゼンテーションやディベートまで、段階を追ってレベルアップできるようなカリキュラムも充実しています。研究力と同時に、材料工学に関する専門英語の読解力や記述力、コミュニケーション力も身につけてもらいたいと思っています」。

VOICE

先端技術を知り世界の舞台で輝け

「材料工学特別コース」は学科横断型であり、各々の専門分野を材料工学の最先端の研究に生かすことができます。島根県の金属産業とOxford大学がコース教育に大きく関わっており、地域産業への興味を深めながら、英語力と国際感覚を身に着けることができます。4月にオープンするNEXTA研究棟ではこれから世界一を目指した研究が強力に推進されていきます。皆さんも本コースで勉強して研究に邁進し最先端の分野で活躍してみませんか？



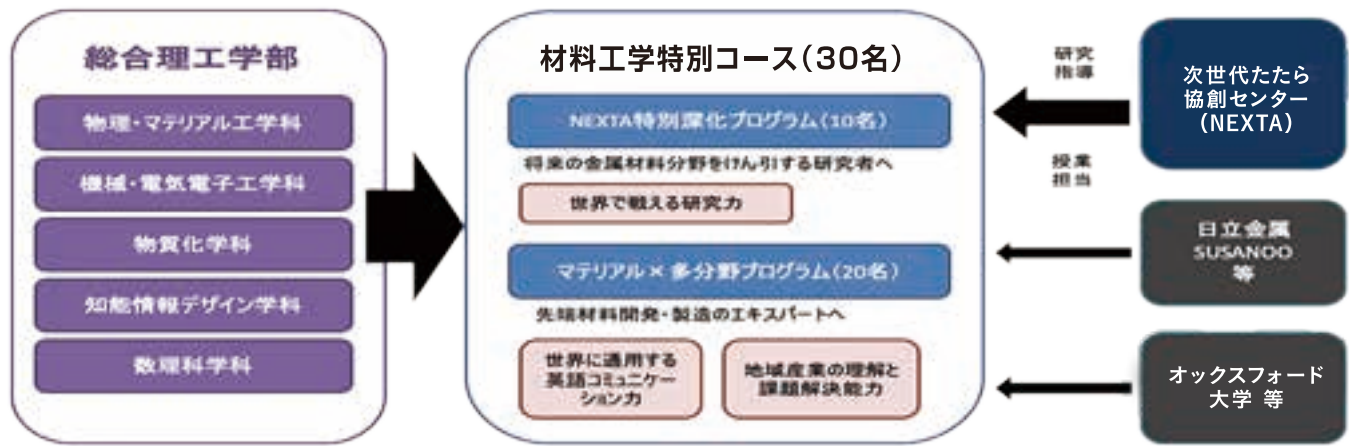
教員

総合理工学部 物理・
マテリアル工学科

三好 清貴 教授



伊藤文彦学部長



材料工学特別コースのここがポイント！

- 最先端の研究に触れることができる
- オックスフォード大学の教員からも学べる
- 多分野の教員がマンツーマンで指導
- 英語コミュニケーション力も磨ける

**世界で戦える力を身につけ
材料分野で即戦力に**

材料工学特別コースで身につけた力を、将来地元、ひいては国際的な場で活かしてほしい。そのためには、学生のうちから地域を知ること、欠かせない要素のひとつです。「早いうちから地元企業との接点を設けてほしいとの声を受け、企業がどのような人材を求めているのかを学生に知ってもらうことで、自分の専

門分野以外にも視野を向け、様々な学習をしてほしいと考えました」。そのような経緯から、1年生後期には「材料科学から社会を見る」という授業を設定しているほか、2年生以降にも企業見学やグループ討論の授業、課題解決型インターンシップを通じて、自身が学んでいることが現場でどのように役立つのか、企業が抱える様々な課題を解決するために何ができるのかを考える機会を準備しています。「4年間を通じて、様々な形で企業との接点により、地元の企業を知り、社会的な視野を身につけてもらうことを目指しています」。

学部では材料工学の最先端に触れ、次は二歩踏み込んで大学院で実際の研究に携わりながら、さらに深く学ぶ。そして将来は地元の企業、ひいては日本、さらには国際的な場で活躍する。世界的な視野と研究力、英語によるコミュニケーション力を身につけ、関連分野の企業において即戦力となる人材を育成するため、教育の整備が着々と進められています。



学生
総合理工学部
物質科学科※
2021年3月卒業
蜷川 芽衣さん
※新学科では物理・マテリアル工学科

材料研究って面白い！

卒業研究では、オリジナルの焼結技術を用いた金属材料作製技術に関する研究を行いました。材料工学の研究では「物質」を成分の調整や加工方法によって「役に立つ材料」に変えることを目指します。自分のアイデアで材料開発にチャレンジできる魅力的な研究分野だと思います。



学生
自然科学研究科
理工学専攻 物理・マテリアル工学コース 2年
市川 皓基さん

産学連携

～材料から製品まで～

私は、大学院で企業と共同で複合材料の研究を行っており、将来、世の中で出回る可能性のある製品開発に材料工学研究の立場で関わっています。研究活動を通して、企業目線での考え方や、実際に製品を産み出していく上で必要なことを知れるのは、私にとって大きな強みになっています。

東アジアと出雲のグローバルな交流を紐解く

古代出雲文化フォーラムⅧを動画配信

平成24年度から東京、広島、大阪など全国各地を回り、今回で8回目となる「古代出雲文化フォーラム」。このフォーラムは、島根大学の幅広い学術研究成果等を発信することで、本学の知名度や存在感の向上を目的としています。今回は、新型コロナウイルス感染症への対応を考慮し、島根大学動画サイト「島根大学チャンネル」で3月1日から配信しています。

コロナ禍でも開催できる 新たなフォーラムの形式を

今回のテーマは「東アジアと出雲」です。日本海を挟んだ出雲と韓半島・中国大陸は、古代から人・モノ・情報が往来してきました。今回のフォーラムでは、日本と韓国の

研究者が出雲と東アジア地域のグローバルな交流について講演を行っています。配信されているフォーラム動画では、本学法文学部の大日方克己教授、釜山大学校人文大文学考古学科の李熙昌助教授、本学法文学部の平郡達哉准教授、島根県埋蔵文化財調査センターの角田徳幸調整監の4名により、それぞれの研究成果を交えながら、古代出雲と東アジア・韓半島地域の交流や影響について講演を行っています。昨年の「古代出雲文化フォーラム」は松江市での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、やむなく中止としました。本年は、このコロナ禍でも開催が可能なオンデマンド方式による動画配信としました。大学構内で2月上旬に動画収録したほか、海外の研究者には現地でも撮影した動画を編集すること

でフォーラムの配信を実現しました。今後、オンラインも積極的に活用しながら事業を実施していきたいと考えています。

本フォーラムの視聴をきっかけとし、東アジア・韓半島と出雲の交流について興味を持っていただき、現代まで続く両地域の歴史や文化を通じた交流の活性化を図っていくことに寄与できればと考えていますので、ぜひご視聴ください。



島根大学動画サイト 「島根大学チャンネル」とは

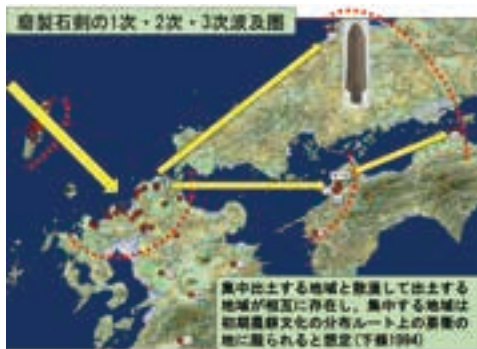
動画サイトYouTube内にある島根大学が公式に設置している動画チャンネルです。今回の古代出雲文化フォーラムⅧもこのチャンネルで公開しています。フォーラムの内容は見やすいように講演者毎に分けられているほか、それぞれの講演も時間に応じて分割されています。時間や場所の制約を受けず、講演をご視聴いただくことが可能です。

チャンネル内には、今回のフォーラム以外にも島根大学の様々な行事や学部紹介、本学卒業生で活躍中の音楽バンド「Officiaria」髭男dism(オフィシャルヒゲダンディズム)が出演している「島根大学紹介プロモーションビデオ」が公開されています。

動画は
コチラから



フォーラムⅧ ダイジェスト 講演者が語る 東アジアと出雲



先史・古代出雲のなかの 韓半島系文物

弥生時代になって本格的に始まった韓半島と出雲間の交流の様子は、日本列島・韓半島両地域で共通する物質資料の持続的増加によって描くことができる。これらの資料を見ることで、韓半島北部(楽浪郡)から出雲平野にいたる海を通じた交流のルートが存在していたと考えられる。現在の国境とは異なる「境界」意識を持った人や文物の動きを解き明かすうえで、出雲出土の韓半島系文物が持つ意義は大きいと言える。



平郡 達哉
(島根大学法文学部准教授)



考古学からみた韓半島南部と山陰、 そして靑島遺跡

紀元前10～8世紀にかけて水田稲作文化に伴う物質、精神文化の渡来が韓半島から日本へと始まった。相互交流が活発化するのには、紀元前4世紀以後で、韓半島南部からも日本の弥生土器が増加する。ほとんどが弥生中期土器、特に靑島遺跡の須玖Ⅱ式が圧倒的に多く、相互交流の証といえる。また交流ルートは北部九州との交易・交流が多かったが、紀元前後からは山陰や瀬戸内までルートの拡大が見受けられる。



李 昌熙
(釜山大学校人文大学考古学助教授)



東アジア世界のなかの古代山陰

9世紀、日本海の北側に渤海という国があった。この渤海と山陰地域、日本海沿岸地域との交流の様子を見ると、東アジアから東ユーラシアへと繋がっていくことがわかる。渤海から日本へは、8世紀は東北地方日本海側を中心に、9世紀は山陰を中心に来航するようになった。この理由は、韓半島の新羅との関係性の変化によるものであるが、記録に残る出雲を来訪した渤海使の記録等により、交流の広がりが伝わってくる。



大日方 克己
(島根大学法文学部教授)



韓半島製の鉄素材
韓国忠清北道彈琴台土城
(中原文化財研究院提供)

古代出雲の鉄と韓半島

山陰地方では、紀元前1～2世紀頃に鉄器が出現する。鉄の生産は6世紀後半頃に始まったことがわかっている。鉄器や、その製作に必要な鉄素材は、製鉄が開始される以前は、韓半島から持ち込まれたものであった。韓半島の古代製鉄は、日本列島では吉備地域に伝わる。原料は鉄鉱石から砂鉄に置き換えられ、出雲の鉄生産技術はこれを導入したものだ。古代出雲の鉄文化は、韓半島と様々な関わりをもちながら育まれた。



角田 徳幸
(島根県埋蔵文化財調査センター調整監)

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界30か国・地域、105の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。



FROM



出身地

中国

シャ・ジンジン

沙晶晶さん

(医学系研究科 医科学専攻博士課程 2021年3月修了)

仕事に対する姿勢に感動
母国に持ち帰り実践したい

島根大学と交流協定を結んでいる寧夏医科大学で修士課程まで学んでいました。夫が1年間交換留学で島根大学に留学していたこともあり、医学部の医療技術や研究の水準が高いことは聞いていました。学ぶには最適な環境と考え、2016年に夫とともに博士課程に入学。歯科口腔外科学講座で、新しい生体材料を用いた顎骨再生治療法について研究を重ねてきました。島根に来てみて、日本の医師はとても責任感が強く、仕事に真摯に向き合っていることに感動しました。患者さんに対しても、じっくり話を聞くなど、コミュニケーションの姿勢に学ぶところがありました。卒業後は中国に戻って医師になります。日本で学んだ技術や新しいアイデア、チームの信頼関係の作り方など、母国でもぜひ実践していきたいです。



1. 第一回島根大学医学部歯科口腔外科学講座「Scientific Awards 2020」の受賞式の様子。沙さんは優秀賞を受賞しました。2. 夫婦で雲南市の斐伊川堤防桜並木に花見へ行った時の様子。

FROM



韓国 (慶北大学校)

出身地



ソン・イエチャン
SONG YECHAN さん
(総合理工学部 特別聴講学生)



1. 英会話サークルESSのメンバーと。活動後などに、若い人が使う言葉や地域ごとの方言などを教えてもらったそうです。2. 国際交流活動を行うサークルISFのハロウィンイベントにて。



多くの人との交流で 異文化理解を深められた

中学・高校で第二外国語として日本語を選択し、留学経験がある知人の影響もあって、日本への留学を決めました。留学するまでは日本語で会話をする機会が少なかったため、いろんな人と交流したいと思い、2つの国際交流系サークルに所属しました。サークルの日本人学生や留学生と毎日話したり、異文化理解の授業で、日本人と外国人でグループになってディスカッションしたりと、自然な環境で日本語の会話に慣れることができました。日本人だけでなく、いろんな国の人と出会えたことで、人によって見る視点が異なることを知り、それを自然と受け入れることができるようになりました。2月に帰国しますが、将来的には日本語に関わる仕事に就きたいと思っていますので、母国でも勉強を続けていきたいです。

TO



イギリス

留学先



はまだ なつほ
浜田 夏帆 さん
(医学部 看護学科 3年)



1. 隣のラベンダーファームへ入所者の方たちと出かけた時の一コマ。2. リンゴの豊作を願うサマーセット州の伝統行事・ワッセルを施設で行った際の様子。



インターンを通じて 看護とは何かを考える

高校時代に海外研修の経験があり、大学でも留学したいと考えていました。看護学科に入り、看護とは何かを考える中で、近代看護教育の母・ナイチンゲールの出身地であるイギリスに行けば何か見える事があるかもしれないと、10か月間身体障がい者施設へボランティア留学しました。資格の都合上日々のケアはできませんが、アクティビティで入所者とクラフト遊びや障がい者スポーツのポッチャをしました。住み込み生活を通じて、これが看護という決まったものではなく、入所者に喜んでもらうにはどうすればよいかを考え、アプローチすることが広い意味で看護なのではないかと思いました。帰国後も、英語に触れる機会は定期的に作っています。留学経験を活かし、将来は国際看護に関わっていきたいと考えています。

特別な様式の和歌で より深い想いを表現 古代人の技法を探る



手銭家所蔵『三十六歌仙画帖』

コミュニケーションの 万能ツール「和歌」

和歌といえば、日本最古の歌集として奈良時代に編さんされ、当時の天皇から庶民まで、さまざまな人が詠んだ歌約4500首が収められた「万葉集」が有名です。野本准教授が研究テーマにしているのは、400年ほど時代が進んだ平安時代後期から鎌倉時代初期。漢詩文が盛んに作られていた平安初期を経て、再び「やまとうた」が公的な文学として復権を遂げたところです。「この頃、和歌はあいさつや恋文、就職活動、お祝い事、弔事など公的・私的どちらの場でも使える万能のコミュニケーションツールでした」と野本准教授。「一般の手紙と違

古代から歌い継がれてきた日本固有の詩歌「和歌」。「五・七・五・七・七」で構成される三十一文字の短歌形式が有名ですが、特別な目的のためにより長く、手の込んだ様式も使われていました。言語文化学科の野本瑠美准教授は、和歌の様式と、歌を詠む目的や内容との関わりなどについて研究しています。



PROFILE

法文学部 言語文化学科
野本 瑠美 准教授
のもと るみ

神様が詠んだとされる百首歌も研究テーマの一つでしたが、島根大に赴任後、出雲市の手銭記念館で従来知られていなかった作品に偶然出会い、運命を感じました。同館の所蔵資料を使って4年間、古典文学の入門的連続講座も開催。勉強熱心な市民の方が多く、驚きました。



手銭家所蔵『瑠璃壺百首』

2

1. 2019年に、出雲市の手銭記念館での講座で使用した資料。『三十六歌仙画帖』(手銭家所蔵) 2. 野本准教授の研究対象としている和歌『瑠璃壺百首』(手銭家所蔵) 3. 手銭家での講座の様子。4. 野本准教授の著書『中世百首歌の生成』(若草書房)。



4



3



1

百首歌や長歌で より特別感を演出

い、『五・七・五・七・七』という決まった形式や多くのルールがある和歌を使うことで、特別感を醸成してたと考えられます」と続けます。たとえば、当時の貴族は役職を得るため、和歌を添えた手紙を上司や帝付きの女官らに送りました。自らの想いや能力をアピールする、プラスアルファのツールとして使われていたのです。

三十一文字では足りない特別な想いを表現したい時には、短歌を100首連ねた「百首歌」や、「五・七」を何度も繰り返して最後に七文字を足す「長歌」が用いられた。

「天皇に献上する時や、天皇が亡くなった時などに深い想いを表現するツールとして使われていたようです」。1人で100首もの歌を詠むだけでも大変ですが、12世紀初めごろになると、1首ごとにテーマを決めて詠む「百題百首」という作品も誕生。1首ごとに完成しているだけでなく、全体としてもストーリー性があるなど、質の高い

ものも生まれました。野本准教授は、「現代でも、大切なメッセージを伝える時には、メールやSNSではなく手書きで手紙を書くなど、コミュニケーションに応じて様式を変えます。古代の人々も、様式そのものにこだわり、規則性を生み出していました」と解説してくれました。

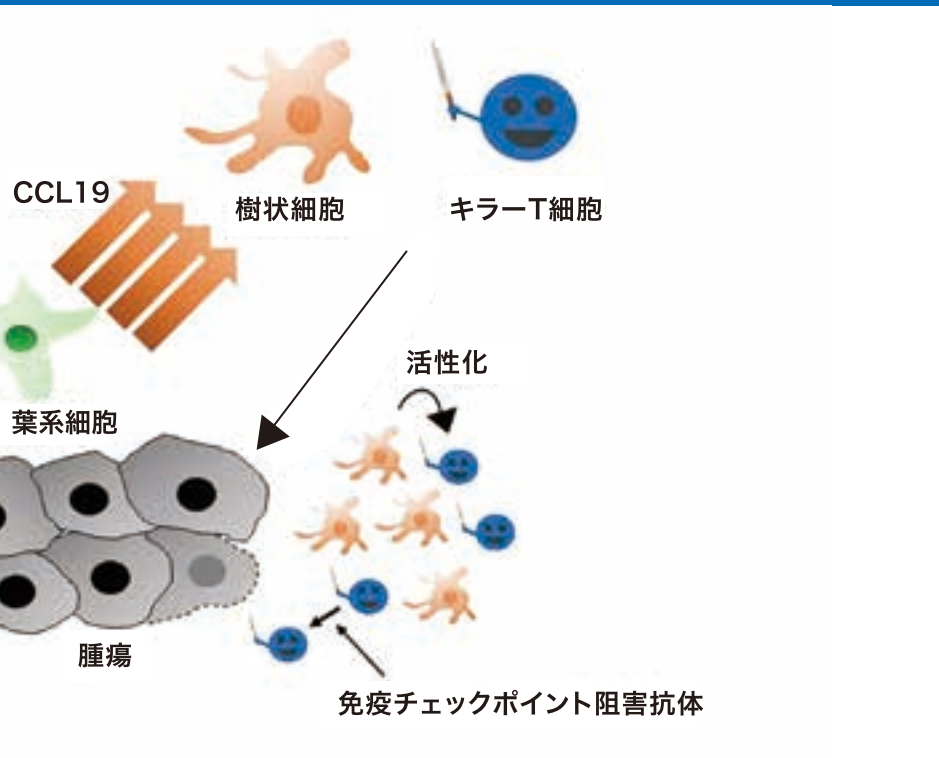
和歌は、人と人以外の境界も超えるメディアとして、神仏や死者とも交信が可能と信じられていました。この奉納和歌と呼ばれるジャンルでも、1首と100首では詠む形式に差があるそうです。「1首では、神様への願いが直接的に表現されていますが、100首の中ではそのような歌は1〜2首程度。神様を喜ばせるために、願い事よりも作品としての質の高さを優先したようです」。

大学院時代から和歌を研究してきた野本准教授は、「自然の美しさに感動したり、人の心に寄り添ったりする気持ちは現代人と変わりません。同じ想いでも、伝えたい人によつて形式やツールを変えるなどさまざまな工夫をしています。現代語訳を取っ掛かりに、原文にも触れ、和歌の魅力を感じてもらえれば」と話します。

マウスモデルを用いて 免疫治療の効果を上 セルバンク化も狙う

樹状細胞を呼び寄せて キラーT細胞を活性化

間葉系細胞の局所投与によって 胞ががん細胞を攻撃する様子



がんの治療法としては、一般的に外科治療(手術)、化学療法、放射線治療が知られています。近年4つ目の治療法として注目を集めているのが免疫療法です。「ヒトの体内では一日に数千個ものがん細胞が生まれていますが、免疫細胞がパトロールして排除してくれています。しかし、がん細胞の一部は免疫メカニズムから逃避して、がんを悪化させます。そのため、従来免疫療法によるがん治療は困難であると考えられています」と飯田助教。この課題を突破したのが、本庶博士らが発見した免疫チェックポイント分子でした。



PROFILE

医学部 医学科
飯田 雄一 助教
い い だ ゆういち

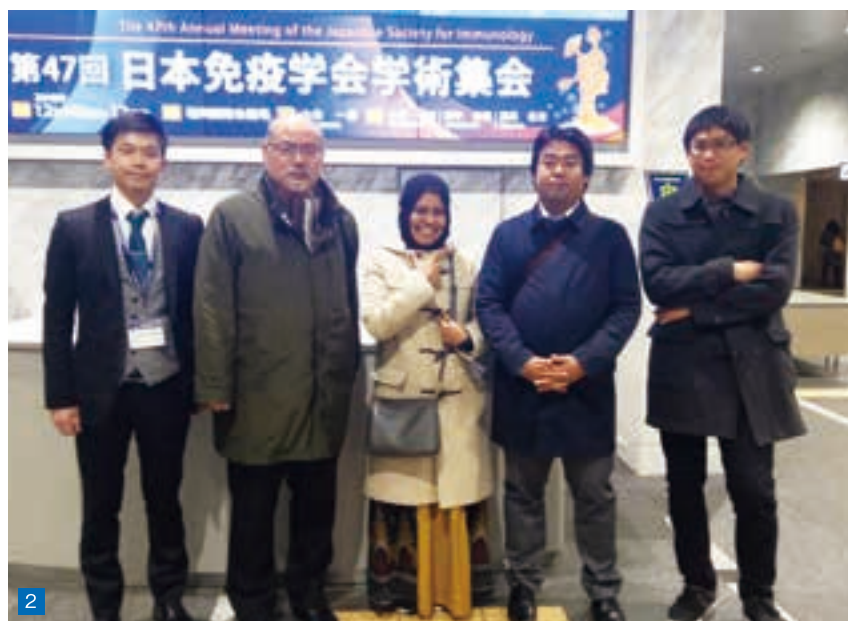
子どもの頃から物の仕組みに興味があり、時計やミニ四駆を分解しては親に怒られていました。医師を目指していた時期もありましたが、病気のメカニズムを解明することに面白さや意義を感じるようになり、研究者の道へ。研究すればするほど興味は尽きません。

2018年の本庶佑博士のノーベル賞受賞で、一躍脚光を浴びるようになったのが、免疫によるがん細胞への攻撃力を保持させる「免疫チェックポイント阻害療法」。医学部の飯田雄一助教は、この治療法と、免疫細胞「キラーT細胞」の増加を併用することで、治療効果を向上させる基礎研究を行っています。

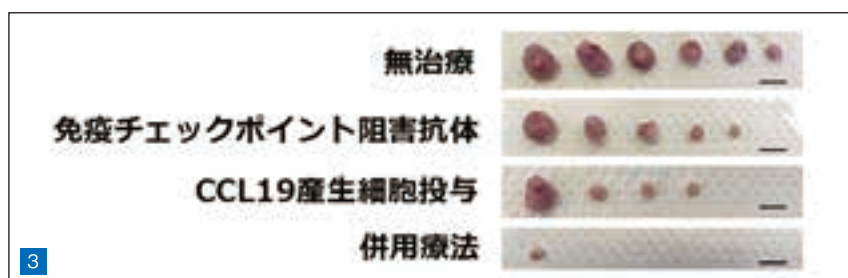
CCL19産生 キラーT細胞



CCL19産生間葉系細胞



2



3

1. CCL19を産生する間葉系細胞を腫瘍局所へ投与。CCL19によって樹状細胞が呼び寄せられ、がん細胞を攻撃するT細胞を活性化することで抗がん応答を増強します。2. 日本免疫学会でラボメンバーと(左が飯田助教)。3. 免疫チェックポイント阻害療法に加えて、CCL19産生細胞を投与したマウスの腫瘍を比較。

1

免疫細胞は、過剰な活性化を抑制するとともに、自己を攻撃しないため、ブレーキをかける仕組みを備えています。このブレーキの役割をするのが免疫チェックポイント分子です。がん細胞はこの仕組みを利用し、自らが攻撃を受けないよう免疫細胞にブレーキを促すシグナルを送り、免疫細胞の活性化を抑制させていたことが分かったのです。そこで、ブレーキさせるシグナル伝達を遮断して、免疫細胞のブレーキ機能を解除し、本来の機能を発揮させようとするのが、免疫チェックポイント阻害療法です。

抗がん剤では効果が出なかったがんにも効く画期的な治療法ですが、高くても2〜3割程度の患者さんでしか効果を示さないのが課題でした。そこで飯田助教が取り組んだのが、がんを攻撃するキラーT細胞の増加です(図1)。まずCCL19というタンパク質を産生する間葉系細胞を、マウスの腫瘍局所に投与。生み出されたCCL19が、体内で免疫メカニズム内の司令塔的役割を担う樹状細胞を呼び寄せ、T細胞を活性化させました。免疫チェックポイント阻害療法に加え、CCL19産生細胞を投与した

マウスは、6匹中5匹で腫瘍の完全消失が確認されました(図3)。

間葉系細胞バンク化で 臨床活用の可能性も

今後の目標は、ヒトへの応用です。飯田助教は、課題の一つとしてまず、細胞ソースの確保を挙げます。「今回の研究で用いた間葉系細胞は、マウス3匹分の足の骨髄から採取しました。ヒトで同様のことは行えませんが、体内の各所にある細胞なので、集められないこともないかもしれません。人工的に操作した細胞を体内に戻すことによる影響は未知の部分も多く、倫理的問題もあります。」

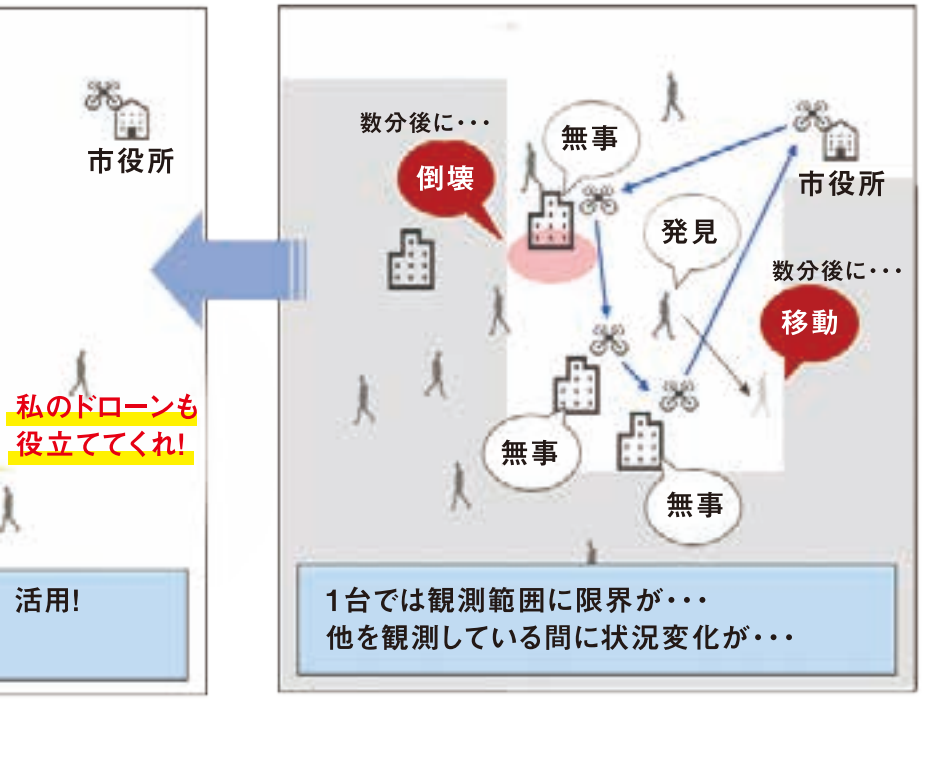
そんな中、飯田助教が新たに挑んでいるのが、間葉系細胞のバンク化です。他人の細胞を移植しても免疫拒絶されにくいという特性を生かし、第三者から集めた細胞をプールしておいて、必要時に患者に投与するというシステムを考えています。日本人の3人に1人ががんで亡くなるという時代。飯田助教の研究が、今後のがん治療に与える影響は大きそうです。

ドローンを活用した 大規模災害発生時の 被災者支援システム構築

被害状況や救助需要を
リアルタイムに把握

地震やゲリラ豪雨などの自然災害が発生した直後、被害に対応するためにまず求められるのがリアルタイムな状況把握です。たとえば地震の場合、5分前には壊れていなかった建物が次の瞬間には余震で倒れるかもしれません。危険な場所から避難したにもかかわらず、途中でけがをしたり、新たな危険に見舞われたりしている人がいるかもしれません。状況が正しく把握できず、情報伝達がうまくいかなければ、二次災害にもつながり、救助活動もスムーズに行うことができません。そこで神崎准教授が注目したのがドローンの活用です。

用した災害時の支援システム



PROFILE

総合理工学部 知能情報デザイン学科

神崎 映光 准教授

かんざき あきみつ

コンピューターでのシミュレーションが先行していたので、実際にドローンを購入したのは昨年。操縦方法を理解しないまま、研究室内で動かしたら、初起動で天井にぶつけてしまいました。人による操作すら結構難しいので、自動操縦で的確に飛ばすのは一層難関です。

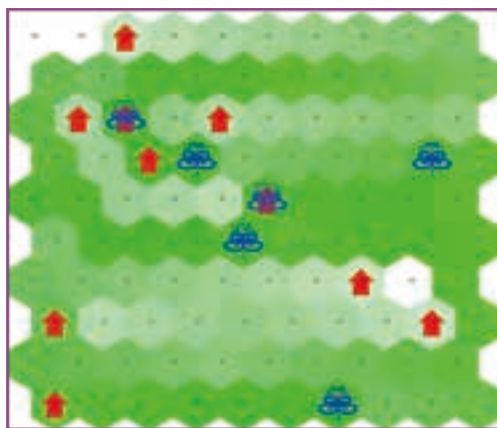
地球温暖化の影響などもあって近年、世界各地で頻発している大規模な自然災害。甚大な被害をもたらすことも多く、迅速な被災状況の把握や情報発信、被災者救済が大きな課題となっています。知能情報デザイン学科の神崎映光准教授は、ドローンを活用した被災者支援システムを研究しています。

ドローンを活



2

1. 災害発生時における情報収集手段としてドローンを活用。学術機関や企業、個人など様々なところにあるドローンを活用する「草の根」ドローンを提案。2. 神崎准教授の研究室には様々な種類のドローンが。最近では子ども向け教材としてドローンプログラミングなどもあるのだそう。3. 複数のドローンが満遍なく、一定の範囲を観測するシミュレーションの様子。



3

大学近辺の
状況確認を
してみよう



対象領域にあるドローンをフル
「草の根」ドローン

1

「ドローンで空からの映像を撮影すればリアルタイムに被害状況が分かるし、赤外線センサーを搭載すれば、がれきの中の人を見つけることもできます」。

しかし自然災害がもたらす被災範囲は広いことが多く、1台や2台のドローンではリアルタイムの状況把握は困難です。かといって国や自治体などが数十台も所有するのはメンテナンスコストもかかり、現実的ではありません。一方で、近年ドローンを趣味で楽しむ人や、農薬散布、土地測量などに活用する民間企業が増加。神崎准教授は、普段埋もれているドローンを非常時に活用できるシステムを構築し、各ドローンが協力して広い範囲を満遍なく探索できることを目指しています。

方法論を確立して 実現化を狙う

実際に活用するためには、ドローン内部に搭載する「フライトコントローラー」に必要なプログラムを書き込んで、機体の動きを制御させる必要があります。神崎准教授は現在、コンピュー

ター内でシミュレーションを組んで、ドローンの動きを再現させる実験を実施。これは複数台のドローンが満遍なく、一定の範囲を観測できるように、ドローンがシチュエーションに応じて判断できるようにするのが狙いです。「現在は、同じ性能のドローンでシミュレーションを行っています。現在は性能に違いがあってもドローン同士が情報を共有し、協力できる体制を設計したいと考えています」と神崎准教授。「ドローン同士の情報の共有方法など、課題はいろいろありますが、一つ一つクリアしていきたい」と続けます。

スマートフォンを使ったモバイルセンサネットワーク構築についても研究中です。携帯基地を通さず、市中にあるスマホ同士がリアルタイムでつながることができれば、低コストで手軽に情報をやりとりできる点に着目しています。「ドローンやセンサネットワークは、間違った使い方をすれば、権利を侵害したり、危険を生んだりしますが、うまく使えば人々の安全や利便性を高める可能性を秘めています。まずは方法論を練った上で、実現化につなげていければ」。

社会で 活躍する 卒業生

A graduate of
Shimane University

No. //

医療器具品質管理

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、出雲市にある株式会社ジェイ・オー・ファーマに勤務する中林さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile

中林 剛志 さん

株式会社 ジェイ・オー・ファーマ
品質管理部

島根県雲南市出身。2013年3月に総合理工学部物質科学科(現:物質化学科)を卒業後、大学院に進学。2015年3月に大学院総合理工学研究科(現:自然科学研究科)を修了。キャリアセンター(現:大学教育センター)を利用した際に現在の職場を知り、理系分野という共通点に惹かれ入社。現在は品質管理部に所属。

自らの仕事が
患者さんの命に直結
責任とやりがいを感じる

2003年に島根県初の医薬品製造会社として設立された「株式会社ジェイ・オー・ファーマ」。(株)大塚製薬工場と(株)ジェイ・エム・エスが提携してきた会社で、プレフィルドシリンジ(薬液充填済注射器)を専門に製造しています。同社の品質管理部に所属するのが、中林さんです。

製品の調製から充填、滅菌、包装、出荷管理、出荷に至るまで、すべての工程で試験調査を行い、試験をクリアして初めて次の工程に進めるといった徹底した品質管理を行っています。中林さんが担当しているのは、出荷前の「出荷管理」にあたる部分で、いくつかある製品のうち、血液透析などで血液凝固の防止に使われる製品中の成分の含有量を量る試験に携わっています。試験検査以外にも分析法の検証やコンピュータシステムの導入、薬事業務など、仕事の内容は多岐にわたります。

中林さんが入社した年、ちょうど日本薬局方(医薬品の規格基準書)の改正があり、新分析法の検討が必要になりました。その分析法の検証を担当することになったのが中林さん

地域と連携しながら学生が成長し、
社会に役立つ人材の輩出、
素晴らしいと思います。

(島根県松江市・50代男性)

若い方が島根で頑張って
いらっしゃる姿を
どんどん紹介してほしいと思います。

(島根県邑智郡・60代女性)



ヘパリンの
含量試験をおこなう
小林さん。

です。「改正基準の指針は出るものの、それを具体的にどのような機械を使って行うのか。どのように測定するのか。それをやって求めている試験結果が得られるのか、といった点は各社に委ねられます」。社内ではその妥当性の確認を行うとともに、社外では製造に用いる原料メーカーとの調整作業。そして、社内で決めた試験操作が本場に正しいのか、外部の研究施設を訪問し、共同での検討も行ったそうです。分からないことがあればと

にかく自分で調べる、それでも分からないものは上司に相談するなどし、検討作業に2〜3年を費やしました。「試験の成果はまわりまわって患者さんの命に直結することなので、業務に対する責任感はとても大きかったです。また、製造の根幹に関わることなので、自分が変えたことに応じて会社が変わるといえるのは、自分がした仕事の重要性を感じるとともに、やりがいにも繋がっています」。

研究活動の楽しさを実感 いろんなことに興味を持ち 自分で追求していく日々

分からないことは自ら調べる。その姿勢は、大学時代から変わっていないと小林さんは言います。「もともと勉強は好きでした。分からないことがあればすぐに知りたいという思いが強く、自分で調べることが習慣になっていました」。4年生で研究室に配属された後、テーマを決めて実験を繰り返す、そのデータをとりまとめて考える、という研究活動に楽しさと充実感を覚え、これをもう少し続けたいと大学院に進学を決めました。大学院では学部時代とは所属する研究室を変え、石油の精製について研究していました。石油に含まれる硫黄分が大気汚染の原因にもなっ

ていることから、その硫黄分を減らすための脱硫触媒の開発や再生技術の開発に取り組んでいました。「周囲には学びに対して前向きな学生が多かったので、いい刺激を受けました。とにかくいろんなことに興味があったので、他の人がやっていることを自分も学んでみたいと思いました」。丁寧な指導してくださった研究科の先生方や同級生、先輩後輩と、様々な価値観や考えを持つ人たちと積極的なコミュニケーションをとる中で、自分の意見を周囲に伝える力が自然と磨かれていったのだそうです。

研究活動で得たスキルが 日々の業務でも活かせる 変化を恐れず挑戦する

就職活動の際、就職は地元島根でと考えていた小林さん。なかなか研究内容と直結する職種がなかったため、できれば理系の分野でと思って探していたところ、大学のキャリアセンターから同社の募集があることを聞き、採用試験を受けることになりました。

「いろんな分野に興味があったので、医療品製造の知識はほとんどありませんでしたが面白そうと思えました。大学の研究室で使っていた実験装置でいくつか同じものもあつ



「今の仕事の中で、自分が得意な分野を見つけたい」と小林さんは意気込みます。

たので、そういった部分では基礎が分かっていたり便利だったことはあります。でも知らないことの方が圧倒的に多かったですけどね(笑)。試験の原理を知るためには化学だけでなく生物学の知識も必要で、自分で調べたり、社内でも相談や議論するなどしてきました。「自発的に動く、人に相談する、コミュニケーションをとるといったことは、まさに大学時代に培った姿勢だなと思います。あとは、研究活動で得たプレゼンの仕方や資料作成のスキルは、定期開催される報告会での発表が必要な現在の業務でも非常に役立っていますよ」。

次々と新しいことが出てくるため、常に変化が求められる小林さんの仕事。「今と違うことに対して臆することなく、前向きに挑戦していくこと」。この姿勢を入社当時から変わらず持ち続け、毎日の業務に取り組んでいます。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.47に
寄せられた声
をお届けします。

大学と地域との関わりは
お互いにとってもいい取り組みだと
感じていました。

(島根県鹿足郡・40代女性)

古民家シェアハウス学生、
地元の人との交流活動を楽しみに
応援しています。

(島根県出雲市・70代女性)

しまだい便り

大学の
旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

地方創生☆政策アイデアコンテストで新たな発想が評価 最高賞の地方創生担当大臣賞を受賞

昨年12月19日(土)、内閣府が主催する「地方創生☆政策アイデアコンテスト」の最終審査会が行われ、本学関係者の応募した「空き家が繋ぐ人と未来」をテーマとしたプロジェクトが、地方創生担当大臣賞を受賞しました。

このコンテストは地域を元気にする政策アイデアを募るもので、生物資源科学部卒業の佐藤和輝さん、自然科学研究科2年の橋本友太さん、国際交流センターの青晴海教授がメンバーとなり応募をしました。

メンバーは、3年前から大学近くの古民家で留学生と日本人学生が共同生活・地域交流を行い、増加する空き家や留学生の住居の問題について、様々な活動を実施して検証を実施。多様な関係者と新たな社会を作るという発想が高く評価され、受賞となりました。

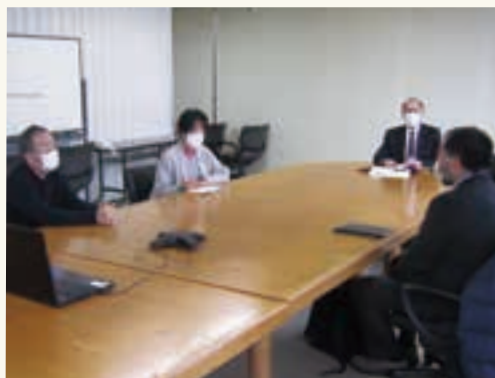


TOPICS

2

学びに関する環境等について学生の声を直接聴く 社会人学生との懇談会を開催

1月22日(金)、学長と大学院医学系研究科の社会人学生との懇談会を開催し、意見交換を行いました。参加した4名の学生からは、医学分野ならではの貴重な学びの経験ができていること、附属病院の医師と研究の話ができることなど、学ぶことの楽しさが伝わってくる非常に前向きな意見が多く寄せられました。本学では、学生から寄せられた意見を今後の大学運営に活かすこととしています。



TOPICS

3

島根大学と地域の経済団体による活発な意見交換 島根県経済団体との懇談会を開催

昨年12月10日(木)に、第8回目となる「島根県経済団体と島根大学との懇談会」を開催しました。経済団体からは、島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、島根県中小企業団体中央会、島根県経済同友会、一般社団法人島根県経営者協会及び島根県中小企業家同友会の代表者の方にご参加いただき、様々なご意見をいただきました。今後、大学が行う取組において、貴重なご意見を役立てていくこととしています。



広報誌を見て島大では
多岐にわたる社会貢献や先進活動が
行われていることを知った。

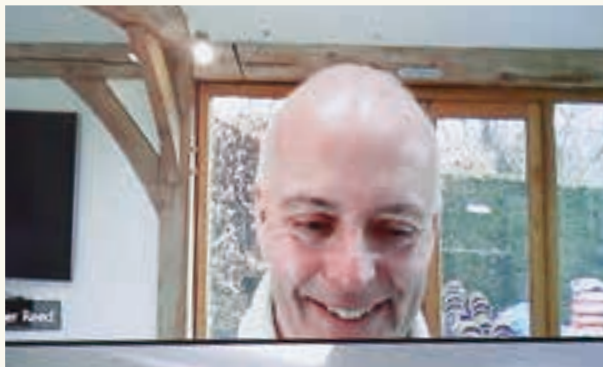
(島根県松江市・80代男性)

環境DNAについて興味があります。
続編を期待しています。

(島根県出雲市・60代男性)

松江南高校SSH特別講義を開催

最新の技術や研究内容を高校生にオンライン講義



昨年12月16日(水)、松江南高校、英国、島根大学を繋ぎ、オックスフォード大学のロジャー・リード教授(次世代たたら協創センター長)と、トニー・タン博士によるオンライン特別講義が開催されました。今回の講義は、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受け、金属などの研究課題にとりくむ松江南高校の生徒へ向けて全編英語で行われました。

講義は合金設計を主なテーマに行われ、最新の技術や研究について基礎的な内容が紹介されました。松江南高校から98名の生徒が参加し、講義に関することや高校で進めている研究について質問しました。

講義の最後には、タン博士からはオックスフォード大学での研究の様子や、自らの計画について何度も考へることが大切であるとお話がありました。また、リード教授は「夢を大きく持ち、世界をより良くするために多くの刺激を受けてほしい。一生懸命に勉強すれば何事も成し遂げられる。」と参加者を激励、今年の来日講義実現に期待を述べられました。

新型コロナウイルスの新抗体を開発

特許出願！島根大学・長崎大学の共同研究



このほど島根大学医学部(浦野健教授)と長崎大学熱帯医学研究所(森田公一教授)の共同研究により、新型コロナウイルスに対する新しい抗体14種類の開発に成功しました。また、評価を行った9種類の抗体のうち、ウイルスのヒト細胞への感染を阻害する能力(中和活性)を持つ抗体を5種類確認しました。

今後、開発した抗体を基に、治療用抗体医薬・抗原検査キット・マスクなどの開発が期待されます。

観光に関するワークショップを開催

地域の観光について様々な視点での意見交換



特別副専攻「観光教育プログラム」の特別企画として、第1回の観光ワークショップを昨年12月2日(水)にオンラインで開催しました。当日

は、本学学生8名と学外から9名の一般参加があり、山陰の観光について様々な意見を交わす機会となりました。参加者からは、「様々な角度から幅広い意見を聞くことができ、参考になった」などの感想がありました。今後このワークショップをシリーズで開催していく予定です。

島根大学の研究活動を身近に学ぶ
島根大学サイエンスカフェを開催



ただけるようにすることを目的とした「島根大学サイエンスカフェ」。社会の様々な課題の解決や持続的な発展について、参加者と研究者との「対話」と「協働」の場となることを願って、令和2年度から新たに「島根からつなぐ！SDGs」をテーマとしてリニューアルしています。皆様のご参加をお待ちしています。

地域の方々に
本学の研究活動
に対する理解を
深めていただく
とともに、大学をよ
り身近に感じてい

スケジュールについては、
こちら (https://www.shimane-u.ac.jp/social-contributions/lifelong_study/sciencecafe/) からご覧下さい。
QRコードからもご覧いただけます。



一貫性のあるストーリーで島根大学の特色を知る
島根大学統合報告書2020



本学では、財務
情報と教育研究
活動の成果を関
連させた広報誌
として新たに「島
根大学統合報告
書2020」を
発行していま

す。この冊子は、従来の財務報告書だけでは読み取れない「大学の価値」「今後の成長性」など非財務情報をステークホルダーに発信する広報誌となっています。

詳細はこちら (https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/publicrelations/profile_pamph/) からご覧ください。
QRコードからもご覧いただけます。



YANMAR ディーゼルエンジン用部品/産業機械用部品
鋳物素材~加工完成・組立一貫生産

テクノロジーと信頼で『夢・希望・未来』を創出する

ヤンマーキャステクノ株式会社

(本社・松江事業部) 〒690-0025 島根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355
(甲賀事業部・鋳造技術センター) 〒520-3233 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800

<https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/>

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

山陽合同銀行

スッキリとした味わいで料理との相性も抜群!!
島根大学の芋焼酎 **神在の里**

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培されたサツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。

■神在の里の取り扱い・お問い合わせは

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津1060 Tel:0852-32-6242
<https://www.shimadai.coop/>

WE LOVE SUN-IN!

タウン情報 求人情報 ポスティング WEB etc.

楽しい街づくり
に貢献します

Webはコテラ!

株式会社メリット 松江事務所 松江市東区南町2-43 TEL.0852-23-2230 月曜-金曜 11:00-18:00
本社:島根県松江市古志原5-13-7 設立/1991年3月 ■採用支援サービス:タウン情報誌の発行 ■求人情報サイト運営 ■広告代理業 他

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

患者さん向けの
“役に立つ”情報満載!
WEB上でも読めます。詳しくはこちら▶

広告募集

広報しまだいで、企業・団体様等からの
広告を募集します。

島根大学企画広報課
TEL : 0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

読者の声
Voice

広報しまだいで
vol.47に
寄せられた声を
お届けします。

女性研究者の方が増えていて、
頑張っておられることを知り
うれしくなりました。
(島根県松江市・30代女性)

現在の社会に役立つ研究に
期待しております。今後の研究が
楽しみになりました。
(広島県世羅郡・50代男性)

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特徴を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

園芸同好会

自分たちで育てた作物を美味しくいただくのも醍醐味

1990年代からの歴史を持つ園芸同好会。キャンパス内にある畑で、玉ねぎや白菜、ニンニクをはじめ10~15種類の野菜を栽培しています。「自分で育てたトマトを収穫して食べた時、このサークルに入ってよかったなと思いました」と部長の松尾さんが話すように、自分たちで畑を耕し、作物を育てて収穫し、食べるという一連の流れを体験できるのがこの同好会の魅力です。無農薬栽培のため、特に葉物類は育てるのが大変だそうで、防虫のために唐辛子エキスが入った水を撒くなど、代々先輩から栽培の知識を継承しながら活動しています。今後はより育てるのが難しいという果物にもチャレンジしていく予定だそうです。



2. 部員は50名程度で、生物資源科学部の学生の割合が多いそうです。活動は週に2回、毎回4~5名が畑に集まります。2. 学内の畑や花壇の手入れに加え、地域の方と共同で松江駅前の花壇のお世話をするなど学外でのボランティアにも参加しています。



小学生から社会人まで幅広い交流が持てるスポーツ

フラッグフットボールは、アメフトに近いですが、タックルなどの身体接触が禁止されているため、安全で老若男女問わず楽しめるスポーツです。「ポジションごとに役割が異なるので、個々が得意なことを活かしやすいのがこのスポーツの面白さです」と部長の有吉さんは話します。活動は、病院の先生方をはじめ社会人と共同で行っているため、先生の子どもさんがついて来て一緒に練習することもあるのだとか。先生方には将来の相談をしたり、高校生とは受験勉強の話をしたりと、幅広い層との交流が持てるのもこのスポーツならではの魅力です。コロナの影響で活動を長期休止しているため、活動再開が待たれます。

出雲キャンパス

フラッグフットボール部



2. 部員は現在17名。例年は春に出雲ドームでの公式戦、秋に広島での公式戦があります。写真は2019年のオープン戦で2位に輝いた時のひとコマ。2. 練習メニューはアメフト経験のある社会人の方と相談して作っているそうです。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「島大会員」制度のご案内

本学では、支援基金への寄附を通じて本学を応援して下さる皆様の会員制度である「島大会員」制度を設け、会員の皆様には「島大オリジナルグッズの贈呈」「交流イベントへの参加」等の特典をご用意しています。

【加入方法】

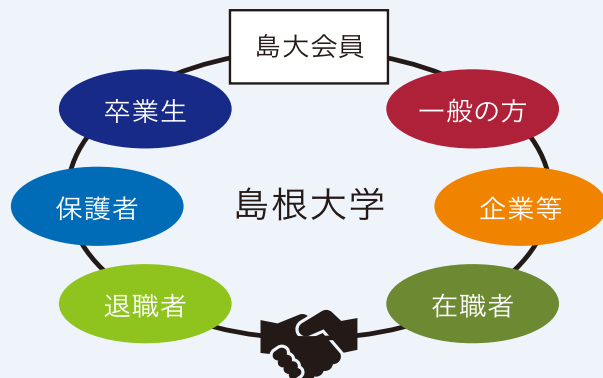
支援基金へ5,000円以上のご寄附でどなたでもご加入(永年会員)いただけます。

【会員特典】

年間寄附額に応じて、「イベントの案内」、「広報誌送付」、「島大カレンダー贈呈」、「島大オリジナルグッズ贈呈」の特典を受けることができます。

【島大会員のつどい】

会員の皆様への感謝の気持ちを示すとともに、本学と会員との交流を図ることを目的に「島大会員のつどい」を開催しています。



支援基金についての詳細は、支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でのご請求も承っております。

お問い合わせ先

島根大学総務課支援基金担当

TEL 0852-32-6015

Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp

https://www.fund.shimane-u.ac.jp/



支援基金HP

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただきたく組みです。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※令和2年11月1日～令和3年1月31日までに年度内寄附累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

法人等からのご寄附

島根島津株式会社

個人からのご寄附

相戸ひろ子	東 秀一	足立玲子	池辺政己	石飛寿実夫	伊東照芳	伊藤幹夫	伊原早紀	井村秀雄	入江文字		
岩下義明	占部義和	大澤祥子	大谷進一	大野純一	岡田光弘	岡本信之	沖貝 浩	奥田秀雄	鬼形和道	垣羽寿昭	加藤幹久
加茂 武	川口公男	神田真理子	北山新二	宮藤龍二	久保田廣明	栗原昌子	小山伸一	佐藤香一	佐藤利夫	佐貴文紀	三瓶良和
杉浦 健	高橋 順	高橋 聖	多田俊郎	田中 薫	田部 恵	長井敦司	永見恭一	中村 豊	名取瑞樹	成田 健	野崎誠二
農守浩治	羽地信子	浜田富次	濱田 太	原 幸治	廣瀬昌博	福井 勇	福田洋二	古野 毅	古林雄貴	正岡 豊	松浦晃幸
馬庭博範	棟石 均	本泉宗晴	矢野 健	山内美香	山本友里子	山本 浩	横田安貞	吉岡宏敏	吉田和信	吉見 顕	吉村光弘

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015 (総務課 支援基金担当) https://www.fund.shimane-u.ac.jp/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

春になり暖かな季節がやってきました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。今号の裏表紙には4月にオープンする新しい研究棟を紹介しています。オックスフォード大学のロジャー・リード教授をセンター長として迎え、世界トップレベルの研究を通じて、金属分野のエキスパートとなる人材の育成に取り組んでいきます。この研究棟については次号以降、詳細な内容を記事で紹介していきますので楽しみに。広報しまだいは、これまで年4回発行させていただいておりましたが、今年度より年3回(4月、7月、12月)の発行となります。発行回数は減りますが、引き続き島根大学の魅力をお届けして参ります。今後ともよろしく願いいたします。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報戦略室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

HP https://www.shimane-u.ac.jp

こちらからもアクセスできます



PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工した「ブルーベリージャム(1瓶)」をプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和3年6月7日(月)必着





Hoyama Medical and Welfare Group

湖山医療福祉グループ

水澄み会

採用に関するお問い合わせ先

TEL (0855) 32-2112 採用担当

E-mail mizusumi-saiyou@beach.ocn.ne.jp



新規事業

2022年3月 松江市で開設予定

水澄み会の運営事業

- ・介護老人保健施設
- ・特別養護老人ホーム
- ・ショートステイ
- ・通所リハビリテーション
- ・通所介護
- ・認知症対応型通所介護
- ・グループホーム
- ・小規模多機能型ホーム
- ・有料老人ホーム
- ・訪問介護
- ・居宅介護支援事業所
- ・サービス付き高齢者向け住宅(予定)

人と木を結ぶ
木造住宅の建築に欠かせない
合板の製造で、
国内シェア約30%を持っています。



N
NISSHIN
松江・浜田・境港を中心に
日本一のメーカーをめざしています。

日新ホールディングス 株式会社
〒690-0887 島根県松江市殿町 383 山陰中央ビル 4F
TEL 0852-33-7830
NISSHIN GROUP WEBSITE
<https://www.nisshin.gr.jp>





株式会社

～よりよい環境づくりを目指して～

コスモ建設コンサルタント

土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント
島根県出雲市斐川町荘原 2226-1
TEL 0853-72-1171



<http://cosmo.jp>



GLOBAL

高機能治具で
モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場
出雲市小境町1700番8 TEL.0853-67-9030
<http://www.gl-b.co.jp/>





～おしたへ、未来へ～

地域創造企業

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。

<http://www.showa00.co.jp/>

おかげさまで35周年






あしたへ 未来へ
求人のお問い合わせは

建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事

株式会社 昭和測量設計事務所

営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山
【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町ハ32-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本



日本システム開発

先進のIT技術で 未来を拓く。

エンタープライズ系・組込み系のソフトウェア受託開発を
メインに、研究開発にも積極的に取り組んでいます。

日本システム開発株式会社 本社:名古屋 事業所:東京、松江
〒690-0003 松江市朝日町 480 番地 8 松江 SKY ビル 3F
TEL:0852-28-7175 FAX:0852-28-7233 HP: <https://www.nskint.co.jp/>



次世代たたら協創センター新研究棟2021年4月オープン！

NEXTA Generation

TATARA Co-Creation Centre

「人と技術を融合させる研究棟」

次世代たたら協創センター(通称NEXTA)は、島根大学に設置された金属材料の研究センターです。この度新設された研究棟を拠点に、オックスフォード大学など国内外有数の研究機関と連携し、また「たたら製鉄」の伝統を受け継ぐ地域の力を結集しながら、「先端金属材料の中心「島根」」の創出を目指します。

- ✔ 先進的で特色のある実験装置
国内に数少ない電気熱機械試験機を導入。最新の電子顕微鏡など、今後も新機導入予定。
- ✔ 教員・学生・企業人が自由にディスカッションできる交流スペース
学生居客や機器室にガラス壁を多く採用。活発な議論が通じオープンな雰囲気です。
- ✔ 企業などの研究活動拠点となる企業連携ゾーン
共同研究のための企業研究室や共同実験室を用意。セキュリティも充実しています。

「島根から世界に発信！」
NEXTAでは、世界トップレベルの研究を通じて、金属分野のエキスパートとなる人材の育成に取り組んでいます。「NEXTAの研究にはどうすれば参加できる?」「共同研究に参加したい」→NEXTAのニュースやイベント情報など、詳しくはホームページをご覧ください。



松江キャンパス
総合理工学部2号館 5階



【お問い合わせ】

国立大学法人島根大学
次世代たたら協創センター事務室
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
E-mail: tatara@office.shimane-u.ac.jp

•見学のご希望など、各種お問い合わせは上記メールアドレスにご連絡ください。

本学は、授業や実験スケジュールの他、新型コロナウイルス感染症の状況によりご希望に添えない場合もございますので予めご了承ください。

